

科目名 (英)	心理学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	PsychologyⅡ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期
学科・専攻	言語聴覚士科					曜日・時間	水曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として、また、心理学を専門分野として研究を深めた教員が担当する。「人を理解する」という観点から講義を進める。言語聴覚士として将来必要とされる知識の獲得を目指す。さらに、学んだ知識は、実際の生活でも活かせるよう促す。							
【到達目標】 ・言語聴覚士にとって必要な基本的心理学理論の知識を獲得する。 ・「自分を理解する、人を理解する」に心理学の知識を活用する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 山田弘幸著 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 授業の内容を復習すること。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 心理学概論 【授業形態】 講義 【到達目標】 心理学とはどのような学問か説明することができる。			9	【授業単元】 多面的な発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 発達理論をベースに模倣、概念形成等を深く理解する。		
2	【授業単元】 感覚、知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚、知覚の仕組みを理解する。			10	【授業単元】 社会的認知 【授業形態】 講義 【到達目標】 人は社会的動物であるという理由を理解する。		
3	【授業単元】 記憶、学習 【授業形態】 講義 【到達目標】 記憶の分類を列挙できる。各学習理論を説明できる。			11	【授業単元】 自己、人間関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 自己とは何かを説明できる。人間関係を構築することの必要性を理解できる。		
4	【授業単元】 言語、思考 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語獲得、言語と思考の関係を説明できる。			12	【授業単元】 コミュニケーション 【授業形態】 講義 【到達目標】 受容と共感の意味を説明できる。		
5	【授業単元】 情動、動機づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 情動について説明できる。代表的な動機づけを列挙できる。			13	【授業単元】 異常心理 【授業形態】 講義 【到達目標】 各異常心理を説明できる。		
6	【授業単元】 パーソナリティー 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的なパーソナリティー理論を説明できる。			14	【授業単元】 心理療法 【授業形態】 【到達目標】 代表的な心理療法を説明できる。		
7	【授業単元】 発達の基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 代表的な発達理論を説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 分からない所、理解の足りない所を洗い出し、復習のポイントを定める。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 分からない所、理解の足りない所を洗い出し、復習のポイントを定める。			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業で学んだ専門的な知識の理解を確認する。中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	プロ養成講座Ⅱ (Career Development I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士としての臨床経験を持つ教員が、3年間の学校生活で身につけるべき医療人としての身構え・気構え・心構えについての授業を実施していく。 病院実習や国家試験受験に向けての準備を通して、将来自分がなりたい言語聴覚士像を明確にしていく。							
【到達目標】 ・2年生の後期から始まる実習について理解を深め、十分な準備と心構えをしてから実習に臨む ・2年後に控えた国家試験に向けて勉強の進め方を身に付けていく							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料				【授業外における学習】			
回				授 業 概 要			
1				【授業単元】病院実習に向けて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 2年生から始まる病院実習について目的や概要を学び、準備に活かしていく。			
2				【授業単元】学習の方法を身に付ける 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 口頭試問の問題を作成する。今後の進め方について説明を受ける。			
3				【授業単元】インターン実習説明会 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 臨床実習におけるインターン実習の説明を聞いて、制度を理解する。			
4				【授業単元】学習の方法を身に付ける 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 これまでの授業資料を整理して今後の学習に役立てられる状態にする。口頭試問を作成して実施する。			
5				【授業単元】病院実習に向けて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 先輩の実習経験談を聞いて、今後に向けての心構えをする。			
6				【授業単元】学習の方法を身に付ける 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 これまでの授業資料を整理して今後の学習に役立てられる状態にする。口頭試問を作成して実施する。			
7				【授業単元】病院実習に向けて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 病院実習で関わる様々な職種について調査し理解を深める			
8				【授業単元】学習の方法を身に付ける 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 これまでの授業資料を整理して今後の学習に役立てられる状態にする。口頭試問を作成して実施する。			
【特記事項】				【評価について】 提出物40点と定期試験60点の合算で評価する。 試験規定に準ずる。			

科目名 (英)	精神医学 (Psychiatry)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期 月曜日 1・2時限
【授業の学習内容と心構え】							
臨床心理士・公認心理師として相談支援などに携わっている教員が、精神医学に関する概要やその支援について講義を進めていく。また、講義内で精神医学に関わる困難を抱えた事例などを踏まえて、疾患そのものだけでなく、疾患の問題を深めてしまう要因などについても提示し、受講者のイメージを膨らませるよう展開していく。授業内で展開される知識と実際の支援対象者に差があることを踏まえ、受講者は精神疾患を抱える人々の「個人」としての困難と、「疾患」が生じさせている困難など、複数の視点から見られるような受講姿勢が望ましい。							
【到達目標】							
【1】精神機能とその異常について説明することができる。 【2】言語聴覚士が関わる精神医学及びその疾患について説明することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
精神神経疾患ビジュアルブック 学研				診断基準や症状などを事前に予習しておく、講義内での事例がイメージしやすいため、テキストを読むことを推奨する。復習は用語や症状を中心として振り返ることが望ましい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 精神病と神経症 【授業形態】 講義 【到達目標】 精神病と神経症の違いを説明できる 操作的診断基準とは何か説明できる			9	【授業単元】 統合失調症 【授業形態】 講義 【到達目標】 統合失調症の症状を列挙できる		
2	【授業単元】 精神症状学1 【授業形態】 講義 【到達目標】 知覚の異常を列挙できる 思考の異常を説明できる			10	【授業単元】 気分障害・てんかん 【授業形態】 講義 【到達目標】 うつと躁の症状を列挙できる てんかんの分類を説明できる		
3	【授業単元】 精神症状学2 【授業形態】 講義 【到達目標】 記憶と見当識の異常を列挙できる 感情の異常を列挙できる			11	【授業単元】 神経症と適応障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 各神経症の症状を列挙できる		
4	【授業単元】 精神症状学3 【授業形態】 講義 【到達目標】 意欲の異常を説明できる 自我意識の異常を列挙できる 意識の異常を列挙できる			12	【授業単元】 身体表現性障害・PTSD・依存症 【授業形態】 講義 【到達目標】 各精神疾患の症状を列挙できる 依存の定義を説明できる		
5	【授業単元】 パーソナリティ障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 パーソナリティ障害の種類と特徴を説明することができる			13	【授業単元】 食・睡眠・性の異常 【授業形態】 講義 【到達目標】 各精神疾患の症状を列挙できる 摂食障害の定義を説明できる		
6	【授業単元】 精神療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 各精神療法の特徴を説明できる			14	【授業単元】 児童期・青年期の精神障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 各精神疾患の症状を列挙できる 被虐待児の特徴を説明できる		
7	【授業単元】 器質性・症状性精神障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 様々な認知症の特徴について説明できる 中毒性精神障害の特徴、診断、治療法について説明できる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 この科目全体の内容が定着できているか確認し復習に活かす		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 7回目までの内容の理解度を確認する			【評価について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							
講義中心となるが、理解を深めてもらうために受講者に考えてもらうワークを導入することもある。そのため、その際に協力的な姿勢や可能な限り、言語化できるように各自で取り組んでもらうことが望まれる。							

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 長年に渡り医療機関においてリハビリテーション業務に携わってきた教員が授業を行う 本邦のリハビリテーションの流れと、理念を上田の「全人的復権」をキーワードに学習していく。中盤は、病院や病棟機能・リハ関連職種の理解から、医療で働くことのイメージを持てるようにし、後半では現場に入る前の知識としてのリスク管理関連について学んでいく							
【到達目標】 ・リハビリテーションは対象者の権利と健康を守る仕事であるというマインドセットを持つ ・障害の時期や症状に合わせて医療の機能や職種のかかわり方が異なることを理解する。 ・介入準備としてのリスク管理・バイタル測定を実施し、安全のかくにんをとることができる							
【使用教科書・教材・参考書】 テキストは準備します。				【授業外における学習】 調べもの学習を課す単元があります。			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】 近年の医療の概念 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・IC ・NADR ・ACP ・虐待、身体拘束 ハラスメント	9	【授業単元】 リハビリの進め方 【授業形態】 講義 【到達目標】 EBM ガイドライン 予後予測 目的志向 ADLとQOL				
2	【授業単元】 医療法と、リハ専門職の働き方 【授業形態】 講義 【到達目標】 診療報酬・介護報酬・脳血管 I ・専従登録・リハの期限・介護保険下のリハ・医療行為	10	【授業単元】 リスク管理1 【授業形態】 講義 【到達目標】 転倒・ハイインリッヒの法則・低血糖発作				
3	【授業単元】 予防医学・予防リハ・介護予防 【授業形態】 講義 【到達目標】 HPH・健康寿命・3次予防・SDH・地域包括ケアシステム	11	【授業単元】 リスク管理2 【授業形態】 講義 【到達目標】 標準予防策・飛沫感染・感染予防法				
4	【授業単元】 障害者の支援(福祉)・就労 【授業形態】 講義 【到達目標】 総合支援法・ジョブコーチ・就労継続等	12	【授業単元】 血圧測定 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 欠威圧測定の手順を理解する				
5	【授業単元】 理学療法(急性期・回復期・生活期) 【授業形態】 講義 【到達目標】 理学療法について理解する	13	【授業単元】 関連項目と問題演習 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題演習を通じて知識を確認する				
6	【授業単元】 作業療法(急性期・回復期・生活期) 【授業形態】 講義 【到達目標】 作業療法日について理解する	14	【授業単元】 関連項目と問題演習 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題演習を通じて知識を確認する				
7	【授業単元】 多職種連携とは 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 多職種が連携して働く意義を理解する	15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 講義で得た知識をアウトプットする				
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 前半の知識をアウトプットする	【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で学んだ専門的な知識・技術の理解、定着度を 確認する。筆記試験は中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満 点で評価する。 評価は当学規定に準ずる					
【特記事項】 外部からのゲストを迎える授業となるため、日程が変更になる可能性がある。							

科目名 (英)	臨床心理学 (Clinical Psychology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	前期 月曜日 1時限
【授業の学習内容と心構え】 臨床心理士・公認心理師として相談支援などに携わっている教員が、臨床心理学で検討されてきた様々な考えやその背景を踏まえつつ、「心理的援助」とは何かについて講義を進めていく。必要とされる知識だけではなく、実際の対人支援に通じる事例的内容や簡単な演習を取り入れ、人を支援するための技法として理解できるよう教授していく。対人支援は身近なところから臨床的な場面まで幅広いため、各場面でのイメージでの理解を促す。受講者自身の体験とも照らし合わせ、想像力を働かせながら授業を受けることが望ましい。							
【到達目標】 ・言語聴覚士にとって必要な臨床心理学に関する知識を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 山田弘幸著 医歯薬出版株式会社 リハベシク心理学・臨床心理学 内山泰他編 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 小テストで扱う事項はその後の単元理解においても重要となる事項が多いため、復習は用語、背景を説明できるように心がけること。また、イメージを膨らませる上でもテキストを事前に読んでおく予習や、アウトプットを推奨する。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 臨床心理学とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 臨床心理学の概要を説明できる 4大学派の特徴を説明できる			9	【授業単元】 行動療法・認知療法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各心理療法の特徴を説明できる 各技法名から意味を説明できる		
2	【授業単元】 心理的支援のキー概念 【授業形態】 講義 【到達目標】 受容と共感を説明できる バイステックの7原則について説明できる			10	【授業単元】 精神分析・内観療法・芸術療法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各心理療法の特徴を説明できる 各技法名から意味を説明できる		
3	【授業単元】 心理アセスメント1 【授業形態】 講義 【到達目標】 心理アセスメント法を列挙できる 生育歴からのアセスメントのポイントを説明できる			11	【授業単元】 催眠療法・自律訓練法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各心理療法の特徴を説明できる 各技法名から意味を説明できる		
4	【授業単元】 心理アセスメント2 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 質問紙法の特徴を説明できる			12	【授業単元】 森田療法・実存分析・心理劇 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各心理療法の特徴を説明できる 各技法名から意味を説明できる		
5	【授業単元】 心理アセスメント3 【授業形態】 演習 【到達目標】 投影法の特徴を説明できる			13	【授業単元】 短期療法・家族療法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 各心理療法の特徴を説明できる 各技法名から意味を説明できる		
6	【授業単元】 心理アセスメント4 【授業形態】 講義 【到達目標】 作業法の特徴を列挙できる			14	【授業単元】 集団精神療法 【授業形態】 講義 【到達目標】 各心理療法の特徴を説明できる 各技法名から意味を説明できる		
7	【授業単元】 来談者中心療法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人間性心理学に属する心理療法を列挙できる 反射と要約ができる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 この科目全体の内容が定着できているか確認し復習に活かす		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 7回目までの内容の理解度を確認する			【評価について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 用語や内容が多いが、重要点は強調するので、まずはそこから定着を目指すこと。授業内ワークでは受講者の姿勢によって質が左右されるため、協力的な姿勢が望ましい。疑問点は自分で調べることや質問することを推奨する。							

科目名 (英)	学習・認知心理学 (Learning Cognitive Psychology)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月～金曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 臨床心理学を専門とし、様々な対象への相談支援に関わってきている教員が、「人を理解する・人が変わる」とはどういうことかという観点から講義を進めていく。単なる国家試験対策の知識だけでなく、日常生活における具体例を通して理解できるよう教授していく。様々な事例的内容を取り入れていくことにより、実際の心理学の理解を促す。想像力を働かせながら授業を受けることが望まれる。							
【到達目標】 ・認知という人間の情報処理過程について理解する ・学習という人間の行動形成の働きについて理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための心理学 山田弘幸著 医歯薬出版株式会社				【授業外における学習】 毎回の授業で確実に理解して欲しいことを小テストで出題するため、その内容を確実に復習すること。予習としてテキストを読んでからの受講を望む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 認知心理学とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 認知心理学の概要を説明できる 外界の刺激を捉えるプロセスについて説明できる			9	【授業単元】 学習1 【授業形態】 講義 【到達目標】 2つの条件づけの違いを列挙できる それぞれの条件づけと関連する心理的援助技法を列挙できる		
2	【授業単元】 感覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 感覚の種類を列挙できる 感覚の限界について説明できる			10	【授業単元】 学習2 【授業形態】 講義 【到達目標】 強化スケジュール名から特徴を説明できる		
3	【授業単元】 知覚 【授業形態】 講義 【到達目標】 奥行き知覚を説明できる 運動知覚を説明できる			11	【授業単元】 学習3 【授業形態】 講義 【到達目標】 技能学習とは何か説明できる 社会的学習理論について説明できる		
4	【授業単元】 認知 【授業形態】 講義 【到達目標】 パターン認識を説明できる 運動協応について説明できる			12	【授業単元】 動機づけ 【授業形態】 講義 【到達目標】 要求水準とは何か説明できる 代表的な動機づけを列挙できる		
5	【授業単元】 記憶 【授業形態】 講義 【到達目標】 二重貯蔵モデルを説明できる 処理水準モデルを説明できる			13	【授業単元】 言語 【授業形態】 講義 【到達目標】 コミュニケーションの発達段階を列挙できる		
6	【授業単元】 記憶1 【授業形態】 講義 【到達目標】 符号化を説明できる 忘却の仕組みを列挙できる			14	【授業単元】 学習理論を応用した行動支援 【授業形態】 講義 【到達目標】 問題に対してどの技法を使うべきかの選択ができる		
7	【授業単元】 記憶2 【授業形態】 講義 【到達目標】 概念モデルを列挙できる 知識モデルを列挙できる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 この科目全体の内容が定着できているか確認し復習に活かす		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 7回目までの内容の理解度を確認する			【評価について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 板書はしっかりメモすること							

科目名 (英)	心理測定法Ⅰ (Psychometric methodⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
臨床心理士・公認心理師として相談支援などに携わっている教員が、形のない「心」の概念をどの手法で扱うか、データを読み取るための流れなどを社会的な側面や実際の具体例を交えて講義を進めていく。知識としての理解に加えて、理解する目的のために何が必要となるのかという部分も言語聴覚士の過去試験問題を交えておさえていくため、具体化するための想像力を働かせての受講が望ましい。数学的内容も含まれるため、疑問点の積極的解消や受講者同士での相互復習を推奨する。							
【到達目標】							
・言語聴覚士にとって必要な心理測定理論に関する知識を習得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・言語聴覚士のための心理学 山田弘幸著 医歯薬出版株式会社 ・授業内でも参考資料を別途配布予定。				テキストに記載がある心理概念も各種扱うため、事前にテキストを読むこと、授業内の重要ポイントの復習をもって自身の定着度をアセスメントすることを望む。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】オリエンテーション／尺度水準について 【授業形態】講義 【到達目標】 心理測定法の概要を説明することができる。 尺度水準について具体例を挙げて説明することができる。			9	【授業単元】検査法とテスト理論 【授業形態】講義 【到達目標】 心理検査の種別について具体的に述べるができる。 信頼性と妥当性の概要について説明することができる。		
2	【授業単元】代表値と散布度 【授業形態】講義 【到達目標】 代表値と散布度について説明することができる。 代表値の算出をすることができる。			10	【授業単元】調査法と評定法 【授業形態】講義 【到達目標】 心理概念を計測するための尺度を選択することができる。 評定法について説明することができる。		
3	【授業単元】変数と相関分析 【授業形態】講義 【到達目標】 変数の種類について説明することができる。 相関について、数値から関係性を読み取ることができる。			11	【授業単元】質問紙法と調査票作成 【授業形態】講義 【到達目標】 質問紙法の作成手順を具体的に述べられる。		
4	【授業単元】精神物理学的測定法の前提 【授業形態】講義 【到達目標】 誤差の種類を説明することができる。 信号検出理論について説明することができる。			12	【授業単元】仮説的構成概念と因子分析 【授業形態】講義 【到達目標】 因子分析の仕組みと実施手順を説明することができる。		
5	【授業単元】実験法と精神物理学的測定法 【授業形態】講義 【到達目標】 刺激の各測定法について説明することができる。 スティーブンスの(べき)法則を説明することができる。			13	【授業単元】面接法と回帰分析 【授業形態】講義 【到達目標】 回帰分析の実施概要について説明することができる。 面接法の概要を説明することができる。		
6	【授業単元】サンプリングと統計的仮説検定の基本 【授業形態】講義 【到達目標】 母集団からのサンプリングについて説明できる。 統計的仮説検定の概要について説明できる。			14	【授業単元】共分散構造分析とパス解析 【授業形態】講義 【到達目標】 共分散構造分析とパス解析について概要を説明することができる。		
7	【授業単元】観察法と統計的仮説検定の活用 【授業形態】講義 【到達目標】 観察法の概要について説明することができる。 目的に応じた統計的仮説検定の手法を選択し、説明することができる。			15	【授業単元】総復習と定期試験 【授業形態】講義 【到達目標】 科目全体の定着度を確認し、どの部分を復習するべきか予測することができる。		
8	【授業単元】総復習と中間試験 【授業形態】講義 【到達目標】 7回目までの授業内容について、理解度を確認する。			【評価方法について】 評価は筆記試験で行なう。授業内で取り扱った、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】 24年2/29、3/6、7、13、14 3、4、5限開講 ・実践ワークも含まれるため、電卓ツールやExcelなどの活用を推奨する。 ・小テストは重要分の確認として用いるので、復習に活用することを推奨する。							

科目名 (英)	音響学	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Acoustics)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 3時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語学系の大学院を修了し、音声学にも深い理解を持つ講師が担当します。「音」が、物理的にどのような特徴を持っているのかを学んでいきます。難しい概念や用語が出てくる場合がありますが、できる限り平易な解説を心がけます。							
【到達目標】 音響学の基礎を身に付け、言語聴覚士に求められる音響学分野の基礎的問題を解けるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 吉田友敬『言語聴覚士の音響学入門 2訂版』海文堂(2020年2訂2版)。適宜プリントを配布する。 計算が苦手な人は、計算機を持ってきててもかまいません				【授業外における学習】 予習、復習を心がけること。必要に応じて、教科書に書かれた参考図書などを、自分で参照する姿勢をもってほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音圧、周波数、音声波形 【授業形態】 講義 【到達目標】 音響学の基本用語、概念を理解する			9	【授業単元】 スペクトログラムの観察(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 スペクトログラムを読むコツを身につける		
2	【授業単元】 音の物理的強さ 【授業形態】 講義 【到達目標】 Pa、dBを含む計算問題が解けるようになる			10	【授業単元】 スペクトログラムの観察(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 スペクトログラムを読むことができる		
3	【授業単元】 音の種類とスペクトル 【授業形態】 講義 【到達目標】 音響学の基本用語、概念を理解する			11	【授業単元】 Praatの使用(1) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 音声・音響分析ソフトPraatを使って自分の母音のF1とF2を計測する		
4	【授業単元】 音の共鳴 / 音のデジタル化 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の共鳴について理解する デジタル化のプロセスを理解する			12	【授業単元】 Praatの使用(2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 音声・音響分析ソフトPraatを使って自分の母音のF1とF2を計測する		
5	【授業単元】 母音・半母音・フォルマント 【授業形態】 講義 【到達目標】 母音の音響的特徴を理解する			13	【授業単元】 計算問題 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 様々な種類の計算問題を解けるようになる 計算問題を解くための公式を理解する		
6	【授業単元】 子音の音響的特徴(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 摩擦音、破裂音、破擦音の音響的特徴を理解する 促音の音響的特徴を理解する			14	【授業単元】 問題演習 【授業形態】 演習 【到達目標】 教科書に掲載の問題を解き、音響学の知識を深める		
7	【授業単元】 子音の音響的特徴(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 有声音、鼻音、はじき音の音響的特徴を理解する 撥音の音響的特徴を理解する			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験を実施 振り返りを行う。		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験を実施 解説が終わらない場合は次週に持ち越す			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 8回目の授業時間内で試験を実施; 解説を行う 定期試験(60点満点) 実施方法: 15回目の授業時間内で試験を実施; 解説を行う			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴覚心理学	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Auditory Psychology)						
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語学系の大学院を修了し、音声学にも深い理解を持つ講師が担当します。「音」という物理的実体が、私たちにどのように聴こえ、私たちが「音」をどう聞いているのかを学びます。難しい概念や用語が出てくるがありますが、できる限り平易な解説を心がけます。							
【到達目標】 聴覚心理学の基礎を身に付ける。							
【使用教科書・教材・参考書】 吉田友敬『言語聴覚士の音響学入門 2訂版』海文堂(2020年2訂2版)。適宜プリントを配布する。				【授業外における学習】 予習、復習を心がけること。必要に応じて、教科書に書かれた参考図書などを、自分で参照する姿勢をもってほしい。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 音の「大きさ」、「音圧」、「周波数」 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚的尺度(人間に関わる)と音響的尺度(物理、自然に関わる)との関係を再整理する 音の「大きさ」、「音圧」、「周波数」の関係を理解する			9	【授業単元】 デシベル、デシベルの基準値 【授業形態】 講義 【到達目標】 デシベルの定義を理解する		
2	【授業単元】 音の大きさの知覚(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 「大きさ」「音圧」「周波数」の関係を理解する 大きさの単位フォンを正しく理解する 等ラウドネス曲線とその見方を理解する			10	【授業単元】 音圧レベル、聴力レベル、感覚レベル 【授業形態】 講義 【到達目標】 それぞれのデシベルの基準値について理解する		
3	【授業単元】 音の大きさの知覚(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 フォンとゾーンを理解し、両者の違いを説明できるようになる フォンとゾーンに関連する計算問題を解くことができる			11	【授業単元】 音の強さと大きさの関係 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の強さと大きさの関係について理解する		
4	【授業単元】 音の高さの知覚(1) 【授業形態】 講義 【到達目標】 高さの単位メルを正しく理解する オクターブを理解し説明できるようになる			12	【授業単元】 両耳聴 【授業形態】 講義 【到達目標】 両耳で聞くことの利点を理解する		
5	【授業単元】 音の高さの知覚(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の種類ごとの音の高さを理解する			13	【授業単元】 音の大きさの増加率 【授業形態】 講義 【到達目標】 音の大きさの増加率、補充現象について理解する		
6	【授業単元】 マスキング 【授業形態】 講義 【到達目標】 マスキングの仕組みを理解する			14	【授業単元】 総復習 【授業形態】 講義 【到達目標】 授業で扱った部分の総復習を行い、理解できていないところがないか確認する		
7	【授業単元】 聴覚疲労 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚疲労における、一過性閾値上昇の原因を説明できる			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験を実施;授業後半で解説を行う		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験を実施			【評価方法について】 中間試験(40点満点) 実施方法: 8回目の授業時間内で試験を実施;解説を行う 定期試験(60点満点) 実施方法:15回目の授業時間内で試験を実施;解説を行う			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害概論Ⅱ (Introduction to Speech and Hearing Disabilities Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日水曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として、小児分野の臨床経験を持つ教員が、授業を行う。言語発達障害児・者はコミュニケーション機能に困難を抱えている。 人間関係が複雑・稀薄な現代社会において、言語聴覚士のコミュニケーション支援が求められている。							
【到達目標】 言語発達障害のメカニズム・障害・支援について理解を深め、臨床に於ける基盤を学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害 (医学書院)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】Ⅰ 言語障害・言語発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害の捉え方一言語機能			9	【授業単元】 障害・障害児(者) 【授業形態】講 義 【到達目標】 その他の法一障害者総合支援法等		
2	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害の捉え方一言語の構成要素			10	【授業単元】 こどもの障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 こどもの障害の種類		
3	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害の捉え方一言語モダリティー			11	【授業単元】 発達・発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害一言語に関わる障害		
4	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害の捉え方一阻害要因			12	【授業単元】 発達・発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害一発声・発語に関わる障害		
5	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害の捉え方一定型発達レベルから			13	【授業単元】 発達・発達障害 【授業形態】講 義 【到達目標】 言語発達障害一コミュニケーションの障害		
6	【授業単元】 障害・障害児(者) 【授業形態】講 義 【到達目標】 障害者福祉諸法一副詞6法			14	【授業単元】 小児の成長と発達 【授業形態】講 義 【到達目標】		
7	【授業単元】 障害・障害児(者) 【授業形態】講 義 【到達目標】 発達障害者支援法			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】講義 【到達目標】			【評価について】 学則の評価基準に準ずる			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚障害診断学Ⅱ (Diagnosis of Speech and hearing Disabilities Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 木曜日 2時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として病院にて脳損傷より言語障害や高次脳機能障害等を呈した症例の評価、リハビリを実施してきた教員が担当する。本科目では失語症と高次脳機能障害等のスクリーニング検査を作成することおよびOSCE(客観的臨床能力検査)の実施を通して言語聴覚士としての実践力を身につけて欲しい。							
【到達目標】 1.失語症および種々の高次脳機能障害の症状を俯瞰して説明することができる。 2.失語症および種々の高次脳機能障害をスクリーニングするために必要な項目について説明することができる。 3.スクリーニング検査に適した課題設定、図版、刺激を作成することができる。 4.記録しやすく、症状を把握しやすい記録用紙を作成することができる。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版 標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第2版				【授業外における学習】 グループのメンバーと協力して期日内に仕上げるように工夫してください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 スクリーニング検査とは何か 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 1.スクリーニング検査の目的と概要を端的に説明できる。 2.スクリーニング検査作成上の注意事項を説明できる。 3.スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			9	【授業単元】 OSCEを理解する 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 1.言語聴覚士として必要とされる観察力について実体験をする。 2.言語聴覚士として必要とされるコミュニケーション態度について実体験をする。		
2	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			10	【授業単元】 OSCEを理解する 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 1.言語聴覚士として必要とされる観察力について実体験をする。 2.言語聴覚士として必要とされるコミュニケーション態度について実体験をする。		
3	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			11	【授業単元】 スクリーニング検査のフィードバック 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.自分たちが作成したスクリーニング検査の優れているポイントと修正すべきポイントを説明することができる。 2.スクリーニング検査作成上の注意点を端的に説明することができる。		
4	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			12	【授業単元】 スクリーニング検査のフィードバック 【授業形態】 講義 【到達目標】 1.自分たちが作成したスクリーニング検査の優れているポイントと修正すべきポイントを説明することができる。 2.スクリーニング検査作成上の注意点を端的に説明することができる。		
5	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			13	【授業単元】 スクリーニング検査の仕上げ 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 フィードバックされた内容を参考に各自スクリーニング検査を仕上げる。		
6	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			14	【授業単元】 スクリーニング検査の仕上げ 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 フィードバックされた内容を参考に各自スクリーニング検査を仕上げる。		
7	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。			15	【授業単元】 OSCEに向けての心構え 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 1.代表学生が模擬OSCEを受け、公開レッスンを受ける。 2.公開レッスンを通し、OSCEで求められることを知る。		
8	【授業単元】 スクリーニング検査の作成(グループワーク) 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 スクリーニング検査をグループ毎に作成する。 グループごとに以下の提出を行う。 ①ファイルに綴じたものを提出 ②データをteamsにて提出			【評価について】 ・各自が作成したスクリーニング検査・OSCEの成果で採点します。 ・採点基準は授業中に公開しますので、しっかり練習をしてください。 ・評価は学則に準じます。			
【特記事項】 学校で作成したスクリーニング検査を評価実習、臨床実習にて対象症例の評価に使わせて頂くことも少なくありません。現場で通用するクオリティーを目指して下さい。							

科目名 (英)	失語症Ⅱ (Aphasia Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 水曜日1限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として高次脳機能障害や失語症の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚士を目指す学生に失語症についての専門的な知識と技術を習得できるように指導する。失語症は言語聴覚士が主要分野として関わっていく分野である。臨床に結び付く正確な知識と技術を身に付けられるように講義・演習を行っていく。							
【到達目標】 失語症のタイプや症状について理解して説明できる。検査の目的を理解して正しく選択し、実施できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 ・病気が見える 第2版 ・なるほど！失語症の評価と治療				【授業外における学習】 事前に該当する内容の教科書やノートで復習しておきましょう			
回		授 業 概 要		回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 標準失語症検査補助テスト 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 標準失語症検査補助テストの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			9	【授業単元】 重度失語症検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重度失語症検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
2	【授業単元】 標準失語症検査補助テスト 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 標準失語症検査補助テストの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			10	【授業単元】 重度失語症検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 重度失語症検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
3	【授業単元】 失語症構文検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症構文検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			11	【授業単元】 実用コミュニケーション能力検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 実用コミュニケーション能力検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
4	【授業単元】 失語症構文検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症構文検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			12	【授業単元】 実用コミュニケーション能力検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 実用コミュニケーション能力検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
5	【授業単元】 失語症語彙検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症語彙検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			13	【授業単元】 モーラ分解検査・音韻抽出検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 モーラ分解検査・音韻抽出検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
6	【授業単元】 失語症語彙検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失語症語彙検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			14	【授業単元】 TOKEN TEST・抽象語理解力検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 TOKENTESTと抽象語理解力検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。		
7	【授業単元】 SALA 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 SALAの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 SALA 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 SALAの目的と実施法を理解して実施できる。検査結果をまとめて症状を説明できる。			【評価について】 提出物40点、定期試験60点の計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 検査練習は実際の臨床場面を想定して緊張感を持って行いましょう。							

科目名 (英)	高次脳機能障害学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Higher Brain Dysfunction Ⅱ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 1時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士の資格を有し、高次脳機能障害や失語症の臨床経験を持つ教員が、言語聴覚士を目指す学生に高次脳機能障害についての専門的な知識と技術を習得できるように指導する。高次脳機能障害は失認、失行、記憶障害など多岐にわたり言語聴覚士が関わっていく主要な分野である。臨床に結び付く正確な知識と技術を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 各障害の主要な検査について目的と実施法を理解して検査を実施し、症状を評価できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学 第3版 ・病気が見える 第2版				【授業外における学習】 事前に教科書の該当するページを読んでおきましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 失行 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失行の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。WAB失語症検査の『行為』の項目を実施し結果の解釈ができる。			9	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 記憶障害の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。WMS-Rを実施し結果の解釈ができる。		
2	【授業単元】 失行 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 失行の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。SPTAを実施し結果の解釈ができる。			10	【授業単元】 記憶障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 記憶障害の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。RBMT・S-PAなどの記憶検査について結果の解釈ができる。		
3	【授業単元】 視覚失認 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 視覚失認の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。VPTAを実施し結果の解釈ができる。			11	【授業単元】 遂行機能障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 遂行機能障害の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。BADsを実施し結果の解釈ができる。		
4	【授業単元】 視覚失認 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 視覚失認の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。VPTAを実施し結果の解釈ができる。			12	【授業単元】 前頭葉機能障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 前頭葉機能障害の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。TMT・FABなどの前頭葉機能検査について結果の解釈ができる。		
5	【授業単元】 半側空間無視 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 半側空間無視の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。BITを実施し結果の解釈ができる。			13	【授業単元】 全般的認知機能 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 全般的認知機能の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。WAIS-Ⅲを実施し結果の解釈ができる。		
6	【授業単元】 半側空間無視 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 半側空間無視の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。BITを実施し結果の解釈ができる。			14	【授業単元】 全般的認知機能 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 全般的認知機能の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。WAIS-Ⅲを実施し結果の解釈ができる。		
7	【授業単元】 注意障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 注意障害の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。CATを実施し結果の解釈ができる。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】		
8	【授業単元】 注意障害 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 注意障害の検査の目的と実施法を理解して実施できる。検査結果から症状を説明できる。CATを実施し結果の解釈ができる。			【評価について】 評価はレポート40点、定期試験60点の計100点で評価する。定期試験は筆記試験とする。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 配布する資料をよく読んで進めていきましょう。							

科目名 (英)	言語発達障害学Ⅱ (Speech Development DisordersⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日水曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として、小児分野の臨床経験を持つ教員が、授業を行う。コミュニケーション機能に困難を抱えている言語発達障害児・者は人間関係が複雑・稀薄な現代社会において言語聴覚士の支援が求められている。							
【到達目標】 言語発達障害のメカニズム・障害・支援について理解を深め、臨床における基盤を作る。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 言語発達障害 (医学書院)				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】 講義 【授業形態】 言語発達の基盤—言語中枢の発達が理解できる			9	【授業単元】 言語発達障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 情報収集—問診と行動観察が理解できる		
2	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語発達の基盤—生物学的基盤が理解できる			10	【授業単元】 言語発達障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 評価の種類が理解できる		
3	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 言語発達の基盤—認知機能・社会的相互作用が理解できる			11	【授業単元】 言語発達障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 評価に用いられる検査—発達全般・認知機能		
4	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 ことばの発達段階—前言語期が理解できる			12	【授業単元】 言語発達障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 評価に用いられる検査—言語検査が理解できる		
5	【授業単元】 言語障害・言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 ことばの発達段階—単語獲得期が理解できる			13	【授業単元】 言語発達障害の評価 【授業形態】 講義 【到達目標】 評価に用いられる検査—社会生活能力が理解できる		
6	【授業単元】 言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 ことばの発達段階—幼児期 構文獲得期が理解できる			14	【授業単元】 言語発達障害の評価 【授業形態】 講義 演習 【到達目標】 評価に用いられる検査—ことばのテスト絵本が理解できる		
7	【授業単元】 言語発達障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 ことばの発達段階—学童期が理解できる			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 学則の評価基準に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	音声障害Ⅰ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Voice DisorderⅠ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 3・4・5時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 地域の中核病院で臨床を行う、本校の卒業生でもある言語聴覚士が、音声障害の評価・種類・治療についての知識を教授する。							
【到達目標】 ①音声生成のメカニズムを理解する。②音声障害を検出する検査を理解する。③音声障害を起こす疾患を理解する。④音声障害のリハビリテーションを理解する。 ⑤気管切開および無喉頭音声を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 発声発語障害				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 解剖・生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①オーバービュー: 音声障害とは／デモンストレーション ②声が出る原理 ③呼吸にかかわる部位・解剖 ④喉頭(声帯)の解剖			9	【授業単元】 疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①声帯麻痺 ②声帯麻痺の手術		
2	【授業単元】 解剖・生理 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①声帯の働き ②声の高さ ③声の強さ ④声の持続			10	【授業単元】 疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①心因性失声症 ②変声障害 ③痙攣性発声障害 ④その他		
3	【授業単元】 検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①喉頭鏡、喉頭ファイバー ②ストロボスコピー ③その他			11	【授業単元】 訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①STの行う音声治療: 概論 ②間接訓練: 声の衛生指導 ③直接訓練: 病状対処的訓練(1)		
4	【授業単元】 検査 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①グラバス評価 ②発声持続時間 ③声域など			12	【授業単元】 訓練 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①直接訓練: 病状対処的訓練(2) ②直接訓練: 包括訓練		
5	【授業単元】 疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①音声障害をもたらす疾患 ②声帯の器質的疾患: 声帯ポリープ ③声帯の器質的疾患: ポリープ様声帯			13	【授業単元】 気管切開 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①気管切開とは ②カニューレの実際 ③コミュニケーション確保: 人工喉頭		
6	【授業単元】 疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①声帯の器質的疾患: 声帯結節 ②声帯の器質的疾患: 声帯溝症 ③声帯の器質的疾患: 喉頭癌			14	【授業単元】 無喉頭音声 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①喉頭全摘出とは ②無喉頭音声		
7	【授業単元】 疾患 【授業形態】 講義 【到達目標】 以下の項目について理解する。 ①声帯の器質的疾患: 喉頭炎 ②声帯の器質的疾患: 喉頭白板症、喉頭乳頭腫			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 既習事項の定着度の確認。			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	機能性器質性構音障害Ⅰ (Speech DisordersⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 4時限
【授業の学習内容と心構え】 長年小児の臨床に携わってきた教員が、言語聴覚士のスペシャリストとして社会に送り出すために、構音障害に必要な知識と技術を習得する授業を行う。また、講義を通して、学習のモチベーションを維持できるように、具体的なST業務の魅力ややりがいについて伝えていきたい。その日授業を受けたら、復習をしっかりと上 た上で、次週の授業に臨んで欲しい。							
【到達目標】 機能性・器質性構音障害の基礎的知識と構音訓練法の習得を目指す。							
【使用教科書・教材・参考書】 発声発語障害学第3版 医学書院 2021 構音障害の臨床 金原出版 2008				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 構音の発達 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音の発達の流れを理解する。			9	【授業単元】 器質性構音障害(3) 【授業形態】 講義 【到達目標】 口腔がんについて理解する。		
2	【授業単元】 構音器官 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音器官について理解し、子音と母音の構音動作を実感する。			10	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ 【授業形態】 講義 【到達目標】 構音訓練の基礎的な知識を理解する。		
3	【授業単元】 国際音声字母 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 国際音声字母(IPA)に親しむ。			11	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(2) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 p、b、mの訓練方法の習得。		
4	【授業単元】 構音検査 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 検査手順を理解し、実施できる。			12	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(3) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 k、gの訓練方法の習得。		
5	【授業単元】 構音の誤り 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 誤りの種類とその鑑別方法を理解する。			13	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(4) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 rの訓練方法の習得。		
6	【授業単元】 器質性構音障害 【授業形態】 講義 【到達目標】 口蓋裂の概念と治療法について理解する。			14	【授業単元】 音の産生訓練法を学ぶ(5) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 異常構音の訓練の習得。		
7	【授業単元】 器質性構音障害(2) 【授業形態】 講義 【到達目標】 鼻咽腔閉鎖機能の評価について理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 出来なかった問題を見直し、理解を確実にする。		
8	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 出来なかった問題を見直し、理解を確実にする。			【評価について】 中間試験(40点) 定期試験(60点) 実施方法:筆記試験			
【特記事項】							

科目名 (英)	運動障害性構音障害 I (Dysarthria I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分	前期 月曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士、公認心理師として生活期のクリニックで継続的に運動障害性構音障害の患者の評価訓練や生活支援を行ってきた教員が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行います。また運動障害性構音障害につながる解剖学、生理学、病理学、臨床神経学、音声学、発声発語器官の機能構造病態、神経系の機能構造病態の復習を行いつつ、障害像やメカニズムを解説していきます。臨床科目として基礎科目での理解度が大きく必要になる科目なので、今までの講義の見返しを行いつつ授業に臨んで下さい。							
【到達目標】 運動障害性構音障害の定義が口頭で説明できる。 運動障害性構音障害の症状とタイプを表を見て理解できる。 運動障害性構音障害の検査方法、訓練方法を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ディサースリア 臨床標準テキスト(医歯薬出版)、標準言語聴覚障害学「発声発語障害学 第三版」(医学書院)、プリント配布				過去の上記、他科目の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要	回	授 業 概 要				
1	【授業単元】運動障害性構音障害とは 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の5つの要素を説明できる。言語障害としての運動障害性構音障害の位置づけを理解できる 脳血管障害の特性について表にまとめる(GW)	9	【授業単元】運動障害性構音障害の症状 構音障害 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 IPA上の日本語で用いる音の理解ができる。表に日本語の構音をまとめる(個人ワーク)				
2	【授業単元】神経系の機能構造病態の復習 【授業形態】講義 【到達目標】 神経細胞を描画でき機能を説明できる。中枢神経と末梢神経の違いが理解できる。	10	【授業単元】運動障害性構音障害の症状 構音障害 プロソディ障害 【授業形態】講義 【到達目標】 IPA上の日本語で用いる音の理解ができる。プロソディ機能障害で起こる症状を理解する				
3	【授業単元】神経系の機能構造病態の復習 【授業形態】講義 【到達目標】 神経細胞を描画でき機能を説明できる。中枢神経と末梢神経の違いが理解できる。	11	【授業単元】タイプ分類 痙性 弛緩性 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の痙性 弛緩性の発話特徴と原因疾患の理解ができる				
4	【授業単元】神経系の機能構造病態の復習 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 神経細胞を描画でき機能を説明できる。中枢神経と末梢神経の違いが理解できる。脳神経の特徴を表にまとめる(個人ワーク)	12	【授業単元】タイプ分類 UUMN 運動低下 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の運動低下 UUMNの発話特徴と原因疾患の理解ができる				
5	【授業単元】発声発語器官の機能構造病態の復習 【授業形態】講義 【到達目標】 発声にかかわる器官の名称と役割が理解できる。呼吸と発声のメカニズムが理解できる	13	【授業単元】タイプ分類 運動低下 運動過多 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の運動低下 運動過多の発話特徴と原因疾患の理解ができる				
6	【授業単元】発声発語器官の機能構造病態の復習 【授業形態】講義 【到達目標】 発声にかかわる器官の名称と役割が理解できる。呼吸と発声のメカニズムが理解できる。運動障害性構音障害と失語症の患者数の違い(GW)	14	【授業単元】タイプ分類 失調性 混合性 【授業形態】講義 【到達目標】 運動障害性構音障害の失調性、混合性の発話特徴と原因疾患の理解ができる				
7	【授業単元】運動障害性構音障害の症状 運動障害 呼吸・発声機能障害 【授業形態】講義 【到達目標】 運動機能障害、呼吸・発声障害で起こる症状を理解できる	15	【授業単元】中間試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する				
8	【授業単元】運動障害性構音障害の症状 呼吸・発声機能 VPI 【授業形態】講義 【到達目標】 呼吸・発声障害、鼻咽腔閉鎖機能障害で起こる症状を理解できる	【評価について】 評価は①記述②5択③論述の形式で試験を行う。論述では内容だけでなく文章構成も採点基準に含めます。中間試験(40点)、定期試験(60点) の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。					
【特記事項】 教科書のみでは臨床で必要な知識、技術の取得に不足があるため、プリント資料中心で行います。教科書は参考書として使用して下さい。							

科目名 (英)	運動障害性構音障害Ⅰ (DysarthriaⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容と心構え】							
言語聴覚士として生活期のクリニックで継続的に運動障害性構音障害の患者の評価訓練や生活支援を行ってきた教員が理論と実技について、現場の実情を交えつつ講義を行います。また運動障害性構音障害につながる解剖学、生理学、病理学、臨床神経学、音声学、発声発語器官の機能構造病態、神経系の機能構造病態の復習を行いつつ、障害像やメカニズムを解説していきます。臨床科目として基礎科目での理解度が大きく必要になる科目なので、今までの講義の見返しを行いつつ授業に臨んで下さい。							
【到達目標】							
運動障害性構音障害の定義が口頭で説明できる。							
運動障害性構音障害の症状とタイプを表を見て理解できる。							
運動障害性構音障害の検査方法、訓練方法を理解できる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
ディサースリア 臨床標準テキスト(医歯薬出版)、標準言語聴覚障害学「発声発語障害学 第三版」(医学書院)、プリント配布				過去の上記、他科目の講義の資料を読み返して復習を行ってください			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】ここまでのまとめと解説 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験までの内容について理解して、解説が出来る。定義や症状、タイプについてマニュアルを見ながら簡潔に説明ができる			24	【授業単元】標準ディサースリア検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる		
17	【授業単元】タイプ分類 演習① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の症例情報と音声サンプルを元にタイプの診断ができる			25	【授業単元】標準失語症検査補助テスト 単語明瞭度検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 発話特徴抽出検査について理解する。単語明瞭度検査の手順が理解できて実施できる。		
18	【授業単元】タイプ分類 演習② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の症例情報と音声サンプルを元にタイプの診断ができる			26	【授業単元】訓練法 総論、呼吸訓練 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の訓練の原則や予後について理解が出来る。またICFにおける各因子を関連付けられる。呼吸機能の訓練法が理解できる		
19	【授業単元】 機器を用いた検査 発話特徴抽出検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 発話特徴抽出検査の特徴と項目の理解ができる。機器を用いた検査の目的と内容が理解できる			27	【授業単元】訓練法 呼吸・発声訓練 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の呼吸機能、発声機能への訓練法が理解できる。一部、解説を見ながら実施できる。		
20	【授業単元】標準ディサースリア検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる			28	【授業単元】訓練法 構音・鼻咽腔閉鎖機能 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 運動障害性構音障害の構音・鼻咽腔閉鎖機能の訓練法が理解できる。一部、解説を見ながら実施できる。		
21	【授業単元】標準ディサースリア検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる			29	【授業単元】訓練法 発話速度調節法 AAC 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 発話速度調節法やAACの適応と実施方法が理解できる。またマニュアルを皆がら実際に方法を実施が出来る。		
22	【授業単元】標準ディサースリア検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる			30	【授業単元】 定期試験・解説 【授業形態】 【到達目標】 誤った問題の正答とその理由を理解する		
23	【授業単元】標準ディサースリア検査 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 標準ディサースリア検査の手順と適応が理解できる			【評価について】 評価は①記述②5択③論述の形式で試験を行う。論述では内容だけでなく文章構成も採点基準に含めます。中間試験(40点)、定期試験(60点) の合計100点満点で評価する。評価は学則に準ずる。			
【特記事項】 教科書のみでは臨床で必要な知識、技術の取得に不足があるため、プリント資料中心で行います。教科書は参考書として使用して下さい。							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅰ (DysphagiaⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分	前期 曜日・時間 火曜日 4・5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
IMSグループ新越谷病院で勤務している森本です。言語聴覚士として回復期、維持期、生活期を経験してきました。言語聴覚士として働く上で、病期に関わらず嚥下障害の知識・技術の獲得は不可欠です。授業では嚥下障害、嚥下リハビリテーション(評価・訓練)の基礎知識が習得できるようにしていきます。講義を聴くだけでなく、学生さん自ら能動的に学習できるよう、調べる・演習・ディスカッションなども取り入れ、身に付く学習ができるように工夫していきたいと思っています。							
【到達目標】							
①嚥下障害の基礎知識を獲得する ②言語聴覚士が実施する嚥下障害の評価についての基礎知識を獲得する ③言語聴覚士が実施する嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を獲得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
摂食嚥下ポケットマニュアル 摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション				特記なし。必要に応じて適宜案内します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 イントロダクション 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害Ⅰ・Ⅱで学ぶことを理解する 嚥下障害、嚥下リハビリの概要を理解する			9	【授業単元】 嚥下障害の評価(評価の基本的な考え方・流れ) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害の評価の考え方を理解する 嚥下障害の評価方法の流れを理解する		
2	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(解剖生理) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食・嚥下に必要な機能解剖・生理学的知識を理解する 頭頸部の触診を実施する 口腔・咽頭の解剖図を描くことができる			10	【授業単元】 嚥下障害の評価(スクリーニング) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害のスクリーニング評価を理解する 嚥下機能検査(RSST、WMST、WST、FT)を理解する 評価の一部を演習する		
3	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(解剖生理) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食・嚥下に必要な機能解剖・生理学的知識を理解する 頭頸部の触診を実施する 口腔・咽頭の解剖図を描くことができる			11	【授業単元】 嚥下障害の評価(スクリーニング) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害のスクリーニング評価を理解する 嚥下機能検査(RSST、WMST、WST、FT)を理解する 評価の一部を演習する		
4	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(摂食・嚥下メカニズム) 【授業形態】 講義 【到達目標】 摂食・嚥下の5期モデルを理解する 摂食・嚥下のプロセスモデルを理解する			12	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する 評価の一部を演習する		
5	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識(嚥下障害の原因) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害の原因となる疾患等を理解する 加齢による嚥下機能低下を理解する			13	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する 評価の一部を演習する		
6	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識①(嚥下障害の症状と病態) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害の症状を理解する 嚥下障害の病態を理解する			14	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する VF・VE検査の概要を理解する		
7	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識①(嚥下障害の症状と病態) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害の症状を理解する 嚥下障害の病態を理解する			15	【授業単元】 中間試験・解答解説 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】		
8	【授業単元】 嚥下障害基礎知識①(嚥下障害の合併症) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害の合併症(誤嚥性肺炎等)を理解する			【評価方法について】 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で授業内容の理解度を評価する。 評価は学則に準ずる。			
【特記事項】							
※講義の進み具合により、一部内容の変更をすることがあります							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅰ (DysphagiaⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 火曜日 4・5時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 IMSグループ新越谷病院で勤務している森本です。言語聴覚士として回復期、維持期、生活期を経験してきました。言語聴覚士として働く上で、病期に関わらず嚥下障害の知識・技術の獲得は不可欠です。授業では嚥下障害、嚥下リハビリテーション(評価・訓練)の基礎知識が習得できるようにしていきます。講義を聴くだけでなく、学生さん自ら能動的に学習できるよう、調べる・演習・ディスカッションなども取り入れ、身に付く学習ができるように工夫していきたいと思っています。							
【到達目標】 ①嚥下障害の基礎知識を獲得する ②言語聴覚士が実施する嚥下障害の評価についての基礎知識を獲得する ③言語聴覚士が実施する嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を獲得する							
【使用教科書・教材・参考書】 摂食嚥下ポケットマニュアル 摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション				【授業外における学習】 特記なし。必要に応じて適宜案内します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
16	【授業単元】 嚥下障害Ⅰ前半振り返り、嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義 【到達目標】 前半講義、中間試験の振り返りを実施する 嚥下障害の評価方法を理解する VE・VF検査の概要を理解する			24	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(直接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 直接的嚥下訓練方法を理解する 直接訓練の一部を実施する		
17	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下障害の評価方法を理解する VF・VE検査の概要を理解する			25	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(直接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 直接的嚥下訓練方法を理解する 直接訓練の一部を実施する		
18	【授業単元】 嚥下障害の評価(ICFによる評価) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ICFによる嚥下障害の評価方法を理解する			26	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(復習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下訓練方法全般を理解する		
19	【授業単元】 嚥下障害の評価(ICFによる評価) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 ICFによる嚥下障害の評価方法を理解する			27	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(復習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下訓練方法全般を理解する		
20	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(間接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接嚥下訓練方法を理解する 間接訓練の一部を実施する			28	【授業単元】 嚥下障害の評価(VF・VE評価演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 動画演習を通じてVE・VF評価を実施できるようになる		
21	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(間接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接嚥下訓練方法を理解する 間接訓練の一部を実施する			29	【授業単元】 嚥下障害の評価(VF・VE評価演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 動画演習を通じてVE・VF評価を実施できるようになる		
22	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(間接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 間接嚥下訓練方法を理解する 間接訓練の一部を実施する			30	【授業単元】 定期試験・解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
23	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(直接訓練) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 直接的嚥下訓練方法を理解する 直接訓練の一部を実施する			【評価方法について】 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で授業内容の理解度を評価する。 評価は学則に準ずる。			
【特記事項】 ※講義の進み具合により、一部内容の変更をする場合があります							

科目名 (英)	嚥下障害Ⅱ (DysphagiaⅡ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 1・2時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】							
IMSグループ新越谷病院で勤務している森本です。言語聴覚士として回復期、維持期、生活期を経験してきました。言語聴覚士として働く上で、病期に関わらず嚥下障害の知識・技術の獲得は不可欠です。授業では嚥下障害、嚥下リハビリテーション(評価・訓練)の基礎知識が習得できるようにしていきます。講義を聴くだけではなく、学生さん自ら能動的に学習できるよう、調べる・演習・ディスカッションなども取り入れ、身に付く学習ができるように工夫していきます。と思っています。							
【到達目標】							
①嚥下障害の基礎知識を獲得する ②言語聴覚士が実施する嚥下障害の評価についての基礎知識を獲得する ③言語聴覚士が実施する嚥下障害のリハビリテーションについての基礎知識を獲得する							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
摂食嚥下ポケットマニュアル 摂食嚥下ビジュアルリハビリテーション				特記なし。必要に応じて適宜案内します。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 嚥下障害Ⅰ振り返り、嚥下障害Ⅱ概要 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験、嚥下障害の評価・リハビリテーションの復習を行う			9	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(気管切開カニューレ、吸引) 【授業形態】 講義 【到達目標】 気管切開、気管カニューレと嚥下機能への影響を理解する 吸引の必要性和吸引の方法について理解する		
2	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(経腸栄養、静脈栄養) 【授業形態】 講義 【到達目標】 栄養管理について理解する 経腸栄養、静脈栄養について理解する			10	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(外科手術) 【授業形態】 講義 【到達目標】 嚥下障害に対する外科的治療について理解する		
3	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(嚥下調整食) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 嚥下食について理解する 水分とろみの必要性について理解する			11	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(小児の嚥下) 【授業形態】 講義 【到達目標】 乳児・小児の嚥下機能を理解する		
4	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 情報から問題点抽出、目標設定、訓練プログラム立案までを出来るようにする			12	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(栄養アセスメント、栄養障害) 【授業形態】 講義 【到達目標】 サルコペニア、フレイルの概念を理解する 栄養管理について理解する		
5	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 情報から問題点抽出、目標設定、訓練プログラム立案までを出来るようにする			13	【授業単元】 嚥下障害の基礎知識②(解剖・生理) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 摂食・嚥下に必要な解剖・生理学的知識を再学習する 嚥下関連筋の触診を実施する		
6	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 情報から問題点抽出、目標設定、訓練プログラム立案までを出来るようにする			14	【授業単元】 嚥下障害の評価(検査、評価法) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 VF・VE検査について再学習し、理解を深める		
7	【授業単元】 嚥下障害のリハビリ(演習) 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 情報から問題点抽出、目標設定、訓練プログラム立案までを出来るようにする			15	【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】		
8	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験(40点)、定期試験(60点)の合計100点満点で授業内容の理解度を評価する。 評価は学則に準ずる。			
【特記事項】							
※講義の進み具合により、一部内容の変更をする場合があります							

科目名 (英)	吃音 (Stuttering)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・専攻	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日 3・4時限
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 言語聴覚士として吃音臨床に携わり、吃音当事者でもある教員が、吃音の基礎的な内容を講義する。知識だけではなくその障害像の本質を理解し、言語聴覚士として具体的な支援・啓発に努める人材を育成する。							
【到達目標】 吃音障害の基本的知識と、吃音障害の問題点を理解できる。吃音の治療・支援方法の特徴を学び、臨床における基盤を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学「発声発語障害学」医学書院				【授業外における学習】 専門用語を説明できるように復習をしてください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 吃音症/吃音障害 の障害像を把握する 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・具体例を通して、吃音症の言語面や心理面の問題、社会的な制限がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 吃音の定義がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音の定義、分類を理解する ・他の流暢性の障害を理解できる ・吃音中核症状、2次的症状がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 吃音の進展、メカニズム、各原因論がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音の進展がわかる ・吃音の発生メカニズムと特徴が理解できる ・吃音の各原因論がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験、解説、質疑応答				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 吃音の評価・検査がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音の評価・診断の特徴がわかる ・吃音症状の鑑別・評価ができる ・吃音検査法の内容がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 幼児期・学童期の吃音の訓練・支援がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音訓練の目標がわかる ・直接訓練・間接訓練の具体的な内容がわかる ・環境への働きかけがわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 思春期・成人期の吃音の訓練・支援がわかる 【授業形態】 講義 【到達目標】 ・吃音訓練の目標がわかる ・合理的配慮がわかる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験、解説			【評価方法について】 評価は筆記試験で行う。授業内で確認した専門的な知識の理解と定着度を 確認する。筆記試験は、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満 点。			
【特記事項】							

科目名 (英)	小児聴覚障害 I (Infantile Auditory Rehabilitation I)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日 5限目
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として小児の医療現場で耳鼻科を担当し、聴覚障害児のリハビリテーションを行なっている教員が、小児聴覚障害の基礎的な知識を獲得し臨床に活かせる講義を実施する。講義はスライド形式で行い、配布資料をもとに進めていく。事前に該当する箇所の予習をしておくことが望ましい。講義後は、ノートや資料を振り返りしっかりと復習をすること。							
【到達目標】 小児聴覚障害について、発達や障害特性に応じた評価方法及び言語・コミュニケーション支援方法を理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 医学書院 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 小児聴覚障害とは 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児聴覚障害の基本的な原因、診断やリハビリテーションの流れを理解する 聴覚障害と発達への影響を理解する			9	【授業単元】 聴覚障害児の支援と計画1 【授業形態】 講義 【到達目標】 0歳から2歳までの発達を理解し、発達に応じた支援計画を立案する		
2	【授業単元】 小児聴覚検査1 【授業形態】 講義 【到達目標】 新生児聴覚スクリーニング検査の流れを理解する 他覚的聴覚検査(AABR、ASSR、OAE)			10	【授業単元】 聴覚障害児の支援と計画2 【授業形態】 講義 【到達目標】 3歳から4歳までの発達を理解し、発達に応じた支援計画を立案する		
3	【授業単元】 小児聴覚検査2 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児聴覚検査と種類を理解する 聴性行動反応聴力検査(BOA)、条件詮索反応聴力検査(COR) ピープショウ検査、遊戯聴力検査			11	【授業単元】 聴覚障害児の支援と計画3 【授業形態】 講義 【到達目標】 5歳から6歳までの発達を理解し、発達に応じた支援計画を立案する		
4	【授業単元】 小児の補聴機器 【授業形態】 講義 【到達目標】 小児期の補聴器適合と装着指導について理解する 小児人工内耳の適応基準やマッピングを理解する			12	【授業単元】 小児聴覚障害の指導・訓練1 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚障害児のコミュニケーションモードを理解する 聴覚活用の指導方法を説明できる		
5	【授業単元】 小児聴覚障害の原因と病態 【授業形態】 講義 【到達目標】 難聴の発症時期による言語獲得やコミュニケーションの影響がわかる 先天性難聴、後天性難聴を説明できる			13	【授業単元】 小児聴覚障害の指導・訓練2 【授業形態】 講義 【到達目標】 特異的な難聴の種類と特徴を説明できる 視覚聴覚二重障害や難聴を伴う重複障害児の支援法を理解する		
6	【授業単元】 言語・コミュニケーションの検査と評価1 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚障害児の言語・コミュニケーション評価について理解する 発達検査や知能検査、語音による聴覚検査			14	【授業単元】 小児聴覚障害の指導・訓練3 【授業形態】 講義 【到達目標】 養育者支援や社会連携の内容・方法を説明できる 家族支援 関連機関との連携		
7	【授業単元】 言語・コミュニケーションの検査と評価2 【授業形態】 講義 【到達目標】 聴覚障害児の言語・コミュニケーション評価について理解する 発声発語の検査、情緒・行動・社会性の検査と評価			15	【授業単元】 定期試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 定期試験と解説		
8	【授業単元】 中間試験 【授業形態】 講義 【到達目標】 中間試験と解説			【評価について】 評価は筆記試験で行い、中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で採点・評価する			
【特記事項】							

科目名 (英)	成人聴覚障害Ⅰ (Auditory RihabilitationⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で聴覚障害児・者に携わった教員が、成人聴覚障害臨床に関する基本的な知識を身につける講義を行う。 受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノート を良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①成人聴覚障害の原因、症状、特徴について理解する。②聴覚・コミュニケーション・心理社会面の評価について理解する。③成人期の訓練・指導について理解する							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ6 改訂聴覚障害Ⅱ－臨床編 聴覚障害学				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】聴覚障害の基礎知識 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚障害を理解する。 聴覚障害の種類と原因、難聴の区分など 臨床の流れを理解する。			9	【授業単元】コミュニケーション支援 【授業形態】講義 【到達目標】 聴覚障害者のコミュニケーション手段について理解する。 聴覚障害者のコミュニケーション支援について理解する。		
2	【授業単元】成人聴覚障害臨床の対象 【授業形態】講義 【到達目標】 対象者の臨床像を説明できる。 若年聴覚障害者、中途失聴者、高齢難聴者 対象者のニーズを把握できる。			10	【授業単元】コミュニケーション支援 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 指文字および手話について理解する。 読話指導について理解する。		
3	【授業単元】成人聴覚障害者の諸問題 【授業形態】講義 【到達目標】 成人聴覚障害者の抱える問題を理解する。 ライフステージごとの難聴による影響を理解する。 中途失聴者の心理回復過程が説明できる。			11	【授業単元】コミュニケーション指導 【授業形態】講義 【到達目標】 聴能訓練の方法を説明できる。		
4	【授業単元】聴覚評価 【授業形態】講義 【到達目標】 成人聴覚障害者の聴覚評価の方法と解釈が説明できる。			12	【授業単元】コミュニケーション指導 【授業形態】講義 【到達目標】 聴能訓練の方法を説明できる。		
5	【授業単元】聴覚評価 【授業形態】講義 【到達目標】 成人聴覚障害者の聴覚評価の方法と解釈が説明できる。			13	【授業単元】二重障害 【授業形態】講義 【到達目標】 二重障害の基礎について理解する。		
6	【授業単元】聴覚補償 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器について理解する。			14	【授業単元】二重障害 【授業形態】講義 【到達目標】 二重障害のコミュニケーションについて理解する。		
7	【授業単元】聴覚補償 【授業形態】講義 【到達目標】 人工内耳について理解する。			15	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説		
8	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 中間試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、 定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100 点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	聴力検査法Ⅰ (Hearing TestⅠ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 耳鼻咽喉科で言語聴覚士として各種聴覚検査を実施してきた教員が、聴力検査に関する基本的な知識および測定技術を身につける講義を行う。受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 各種聴力検査の目的、実施方法、結果の解釈について説明できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 聴覚検査の実際 適宜プリント配布				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 音の性質を理解する。 オーディオメーターの特性とオーディオグラム記載法を理解する。			9	【授業単元】検査演習 【授業形態】演習 【到達目標】 各種聴力検査演習		
2	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 標準純音聴力検査の目的、方法が説明できる。 検査条件 閾値の測定法：上昇法と下降法 受話器の装着方法			10	【授業単元】検査演習 【授業形態】演習 【到達目標】 各種聴力検査演習		
3	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義/演習 【到達目標】 マスキングについて説明できる。 簡易法とプラトー法 プラトー法を理解する。 プラトー法演習			11	【授業単元】他覚的聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 聴性誘発反応について説明できる。 蝸電図、ABR、MLR、SVR 聴性誘発反応について説明できる。 ABRの検査条件、方法、結果の解釈		
4	【授業単元】純音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 自記オーディオメトリーについて説明できる。 目的と方法 内耳機能検査について説明できる。 SISI、ABLB、MCL/UCLtest			12	【授業単元】他覚的聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 耳音響放射について説明できる。 EOAE、DPOAE、SOAE		
5	【授業単元】語音聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 語音聴力検査について説明できる。 SRTとSDT スピーチオーディオグラム 語表			13	【授業単元】乳幼児聴力検査 【授業形態】講義 【到達目標】 乳幼児聴力検査について説明できる。		
6	【授業単元】語音聴力検査/インピーダンスオーディオメトリー 【授業形態】講義 【到達目標】 語音聴力検査について説明できる。 SRTとSDTの検査方法 ティンパノメトリーについて説明できる。 目的と方法および結果の解釈			14	【授業単元】乳幼児聴力検査 【授業形態】演習 【到達目標】 乳幼児聴力検査について説明できる。 問題演習		
7	【授業単元】インピーダンスオーディオメトリー 【授業形態】講義 【到達目標】 音響性耳小骨筋反射検査を説明できる。 目的と方法と結果の解釈 音響性耳小骨筋反射検査を説明できる。 顔面神経障害の障害部位と予後診断			15	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 定期試験、解説		
8	【授業単元】前半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 中間試験、解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	補聴器・人工内耳（人工内耳） (Hearing Aid / Cochlear implant)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分	後期 金曜日 3/4/5時限
学科・専攻	言語聴覚士科						
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 担当教員: 大学病院で人工内耳を含めた難聴の臨床・研究・教育を行っている耳鼻咽喉科医師および言語聴覚士が担当し講義を行う。 学習内容: 人工内耳装用者の聞こえを想像しながら、実際のマッピング場面やデモ機に触れながら、現象や構造を理解する(担当:言語聴覚士)。 人工内耳の適応・種類・手術について演習も取り入れながら理解する(担当:耳鼻科医)。実臨床で患者さんを受け持つことをイメージして学んでください。							
【到達目標】 人工内耳のマッピング方法および評価、訓練内容を理解する。 人工内耳装用者に対する検査法、訓練方法を理解する。 小児および成人の人工内耳適応基準・人工内耳の選択・手術方法・手術のリスク・術後管理について理解する。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布プリント				【授業外における学習】 プリント・演習の復習を行ってください。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】 人工内耳の適応(小児)・選択 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 小児難聴の原因(遺伝子・CMVなど)、検査を理解する。 先天性難聴児の人工内耳までの流れを理解する。 小児の人工内耳の適応・選択を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 人工内耳の適応(成人)・選択口 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 成人難聴の原因(突発性難聴・遺伝子)、検査を理解する。 成人の人工内耳の適応・選択を理解する。 残存聴力活用型人工内耳について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 人工内耳の手術・術後 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人工内耳の手術方法・リスクについて理解する。 人工内耳術後の管理について理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 人工内耳装用者の聞こえと体験 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人工内耳装用者の聞こえを理解する。 デモンストレーション機器を用いて人工内耳について体験する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 人工内耳の構造とマッピング 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人工内耳の名称や構造を理解する。 人工内耳の調整方法や刺激方法を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 人工内耳の評価法・訓練法 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 人工内耳の評価方法や訓練方法について理解する。 小児・成人での評価方法や検査方法を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
	【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】			【評価方法について】 中間試験:40点により評価する。			
【特記事項】							

科目名 (英)	補聴器・人工内耳(補聴器) (Hearing aid and Artificial inner ears)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30時間 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 金曜日 3.4.5時限
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として耳鼻咽喉科で補聴器・人工内耳外来に携わった教員が、補聴器の適合に関する基本的な知識を身につける講義を行う。受講に際しては、教科書の当該箇所を予習し講義に臨んでください。講義中はわからないことはそのままにせず、質問をしてください。また、講義後は講義ノートを良く復習し、知識を自分のものとして運用できるようにしましょう。							
【到達目標】 ①補聴器の構造と機能について説明できる。②補聴器の特性の測定方法と調整を理解する。③補聴器のフィッティングの方法について理解する。④補聴器装用時							
【使用教科書・教材・参考書】 補聴器のフィッティングと適用の考え方 言語聴覚士国家試験出題基準				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
8	【授業単元】補聴器の構造と機能1 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器の構造と機能について説明できる。 アナログ補聴器とデジタル補聴器 アナログ補聴器の主な調整器				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
9	【授業単元】補聴器の構造と機能2 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器の形態的特徴を説明できる。 ポケット型・耳掛け型・耳あな型補聴器など デジタル補聴器の機能を説明できる。 周波数の細分化・雑音抑制・ハウリング抑制など				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
10	【授業単元】補聴器の周波数特性の測定と調整1 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器特性測定装置について説明できる。 無響箱・カブラ(2cm ³ カブラ・密閉型擬似耳)など 補聴器特性表について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
11	【授業単元】補聴器の周波数特性の測定と調整2 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器特性測定装置について説明できる。 無響箱・カブラ(2cm ³ カブラ・密閉型擬似耳)など 補聴器特性表について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
12	【授業単元】補聴器のフィッティング 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器のフィッティングについて説明できる。 補聴器装用時の検討 規定選択法と比較選択法 最大出力音圧の設定				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
13	【授業単元】補聴器適合検査 【授業形態】講義 【到達目標】 補聴器適合検査の指針2010を説明できる。 語音明瞭度曲線または語音明瞭度の測定 環境騒音の許容を指標とした評価など				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
14	【授業単元】装用指導 【授業形態】講義 【到達目標】 成人の装用指導について説明できる。 小児の装用指導について説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
15	【授業単元】後半の振り返り 【授業形態】講義 【到達目標】 ここまで学んだ知識をアウトプットする。 定期試験 解答解説			【評価について】 評価は、筆記試験で行なう。授業内で確認した、専門的な知識・技術の理解、定着度を確認する。筆記試験は中間試験(40点)と定期試験(60点)の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	医療安全	必修 選択	必修	年次	1年	担当教員	
	(Safety Engineering of Medical Devices)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日 1時限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 医療従事者として救急病院や一般病院、クリニック等での臨床経験を有する教員が授業を行う。 医療安全は、医療施設・設備、医用機器等を常に安全な状態を保たなければならない。 医療機器がますます高度化、複雑化する中で医療従事者と患者の安全管理について解説講義する。							
【到達目標】 医療現場では、医療従事者のちょっとした不注意等が医療上で予期できない状況や望ましくない事態を引き起こし、その結果から患者の健康や生命を損なうことになる。 従って、この講座は医療従事者として患者への安全対策や不断的努力目標を設定するために必要な知識を醸成することを目的としている。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・配布プリント				【授業外における学習】 授業復習			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】言語聴覚士と安全管理 【授業形態】講義と演習 【到達目標】 医療のリスクマネジメントについて理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】 各種エネルギーの人体への危険性 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 各種エネルギーの人体への危険性について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】 漏れ電流の安全基準 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 漏れ電流の安全基準について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 院内電気設備の安全基準 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 院内電気設備の安全基準について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】 電氣的安全性の測定 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 電氣的安全性の測定について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】 医療ガス 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 医療ガスの安全管理について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】 システム安全と電磁環境 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】 システム安全と院内の電磁環境について理解できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義と演習 【到達目標】			【評価について】 定期試験(100点満点) 合計100点として評価する			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅱ (Preparation for the National Examination Ⅱ)	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
学科・コース	言語聴覚士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 水曜日1、2限
【授業の学習内容と心構え】 小児の臨床経験を持つ言語聴覚士の教員が授業を担当する。言語聴覚士が主に小児領域で使用する検査の講義・演習を行う。臨床に結び付く正確な知識を身に付けられるように講義を行っていく。							
【到達目標】 小児臨床場面で適切な検査を選択して正しい評価を行うことができる。検査の実施法を理解して実施できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 ・標準言語聴覚障害学 第3版				【授業外における学習】 事前に教科書の該当するページを読んでおきましょう。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】K-ABCⅡ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 K-ABCⅡの概要を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】K-ABCⅡ 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 K-ABCⅡの評価・記載ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】DN-CASとK-ABCを比べる 【授業形態】演習 【到達目標】 DN-CASとK-ABCの類似点を説明できる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】 中間試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】DN-CASと他の検査を比べる 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 DN-CASとWISC-IV、レーヴン、コースの類似点を説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】LCスケール① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 LCスケールの概要が説明できる。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】LCスケール② 【授業形態】演習 【到達目標】 LCスケールの評価・記載ができる				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】 定期試験、解説 【授業形態】 講義 【到達目標】			【評価について】 中間試験40点、定期試験60点の計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】							

科目名 (英)	言語聴覚総合講座Ⅲ	必修 選択	必修	年次	2年	担当教員	
	(Preparation for the National Examination Ⅲ)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15時間 (1)	開講区分 曜日・時間	後期 木曜日3・4限
学科・コース	言語聴覚士科						
【授業の学習内容と心構え】 言語聴覚士として成人分野の臨床経験を持つ教員が、卒業後の臨床現場や評価・臨床実習で必要な症例報告書の作成の仕方を指導する。臨床現場においては患者の症状について正しく評価し訓練することも重要であるが、それを分かりやすくまとめて報告することも求められる。また、評価・臨床実習においても症例報告書の作成が必須である。報告書を作成するための考察のポイントも伝えていきたい。							
【到達目標】 評価・臨床実習および卒業後の臨床現場で求められる症例報告書を作成できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚士のための臨床実習テキスト				【授業外における学習】 提出物は必ず期限を守って提出しましょう。また、読みやすいレイアウトにする、表紙を付ける、正しい位置にステープルを止めるなど体裁を整えることもとても大切です。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
1	【授業単元】症例報告書の項目について 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 症例報告書の各項目の内容・目的・書き方を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
2	【授業単元】症例報告書を読む 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 症例報告書の各項目の内容・目的・書き方を理解する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
3	【授業単元】ICFについて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ICFについて考え方・内容・記載の仕方を理解する。症例について実際にICFを作成し発表する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
4	【授業単元】ICFについて 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 ICFについて考え方・内容・記載の仕方を理解する。症例について実際にICFを作成し発表する。				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
5	【授業単元】症例報告書の作成① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 抄録と発表用PowerPointの作成方法を学んだうえで、模擬症例について症例報告書を作成する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
6	【授業単元】症例報告書の作成① 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 模擬症例について症例報告書を作成する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
7	【授業単元】症例報告書の作成② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 模擬症例について症例報告書を作成する				【授業単元】 【授業形態】 【到達目標】		
8	【授業単元】症例報告書の作成② 【授業形態】講義・演習 【到達目標】 模擬症例について症例報告書を作成する			【評価について】 提出物で評価する。評価は学則規定に準ずる。			
【特記事項】 正しい日本語を使用して、誤字脱字の無いように報告書を作成しましょう。							